

平成 28 年 6 月 28 日 サミットを契機とした地域の総合力向上調査特別委員会資料から抜粋

伊勢志摩サミットの「レガシー」について

1 サミットの取組結果と主な成果

サミットの「レガシー」については、「サミットの開催により、地域にもたらされる有形無形の好影響」と定義するとともに、「知名度等の向上」「会議自体の成果」「地域の総合力の向上」の 3 つの柱で基本的な考え方を整理し、平成 28 年 2 月 15 日の全員協議会において説明しました。

この基本的な考え方にに基づき、伊勢志摩サミットが成功裏に閉幕した結果をふまえ、現時点における取組結果と主な成果を以下のとおり整理しました。

レガシーの項目	取組結果と主な成果
<p>1 知名度等の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重及び伊勢志摩の知名度向上や評価・関心の高まり ・県民と海外・世界との距離が縮まること 等 	<p>○首脳等による神宮訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神宮が「平和への祈り」「調和（自然と人との共生）」「融和（他者や多様性への寛容）」「日本の伝統文化の継続性」等を示す場であることを各国首脳等が実感。世界平和の確立に向けたメッセージを発信 →世界の巡礼地等に匹敵するような、世界中から人が訪れる場所へ <p>○情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重情報館による発信（5 日間で総入館者数 12,729 人） ・海外プレスツアーによる取材（36 か国・地域のプレスが 22 回実施） ・首脳会議や配偶者プログラム、IMCにおいて、伊勢エビや伊勢マグロ、アワビ等の海産物、松阪牛や伊賀牛、伊勢茶等の農畜産物、さらには日本酒、加工品など、県内 26 市町から、少なくとも 269 品目の県産食材等の使用 ・首脳会議用円卓に尾鷲ひのきが使用されたほか、会議用机・椅子などに少なくとも 42 品目の県産品、食器類の使用 ・IMCの外壁や内装に多くの県産材の使用 ・各国首脳が着用した「ラペルピン」へのアコヤ真珠の提供 ・警備、消防などに提供された 33 万食の弁当に、伊勢ひじきやおおさ等、少なくとも 18 品目の県産食材の使用 ・ローソンと連携・開発した、伊勢茶を使用した伊勢志摩サミット開催記念スイーツの店舗販売（H27.10～H28.5、7 品目） ・513 ベーカリーと連携・開発した、県産食材を使用した「みえパン」の店舗販売（H27.10～、24 品目） ・県産の食材や物産、県産食材を使用したメニューへの「伊勢志摩サミット県民会議のシンボルマークを活用した統一マーク」の貼付（55 事業者、248 商品） →伊勢志摩・三重県の知名度向上へ 商品開発や販路開拓等による新たなビジネスチャンスへ

<p>2 会議自体の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宣言、方針、共同声明や、それらに基づく計画、取組等 	<p>○「伊勢志摩」の名を冠した首脳宣言等</p> <p>G 7伊勢志摩首脳宣言(G 7伊勢志摩経済イニシアチブ含)、質の高いインフラ投資の推進のためのG 7伊勢志摩原則、国際保健のためのG 7伊勢志摩ビジョン →伊勢志摩・三重県の知名度向上へ</p> <p>○議論された課題への対応</p> <p>感染症対策、女性の能力開花支援、エネルギー・環境問題への対応等 →世界的な課題への県施策によるアプローチへ</p>
<p>3 地域の総合力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民や地域の一体感の醸成 ・郷土に対する愛着や誇りの高まり ・地域に対する理解深化、地域のネットワーク強化 ・アクティブ・シチズンの増加 	<p>○県民の皆様の活躍</p> <p><おもてなし大作戦の県内全市町での展開></p> <p>「クリーンアップ作戦」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キックオフイベントへの参加者 約 700 名 ・市町における活動 29 市町 (6 万人以上) ・企業、団体等による活動 34 団体 ※キックオフイベントへの協賛等を含む ・東海二県一市と連携した活動 1,300 名以上 <p>「花いっぱい作戦」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートセレモニーへの参加者 約 300 名 ・花の寄せ植え体験講座への参加者 1,000 名 ・市町における活動 29 市町 ・企業、団体等による活動 36 団体 ※スタートセレモニーへの協賛等を含む ・飾花数 11 万本以上 <p><外国語案内ボランティアの活躍></p> <ul style="list-style-type: none"> ・10代から80代まで幅広い層から 1,003 名応募 ・300 名採用 (277 名活動)、約 2,700 名の外国人に対応 ※企業・学校単位の協賛事業による派遣含む 339 名 ・ユニフォームデザイン考案 飯野高校 2 名 <p><配偶者プログラムでの参加></p> <p>(真珠島交流プログラム) 延べ 148 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海女によるお出迎えや交流 85 名 ・鳥羽市女将団体によるお出迎え 9 名 ・伊勢音頭保存会・「伊勢っ子」との踊りによる交流 41 名 ・鳥羽九鬼水軍太鼓保存会による演奏 8 名等 <p>(IMC 視察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統工芸士による伊賀くみひもの実演 1 名 ・県手もみ茶技術伝承保存会による伊勢茶手もみ実演と体験 2 名

(つづき)

- ・通訳ボランティアによる竹細工ワークショップの通訳サポート 2名

<三重情報館での参加>

- ・鈴鹿墨を使用した書のパフォーマンスと書の実演 5名
- ・県内 35 全ての蔵元からの日本酒の振る舞い 2名
- ・伊勢形紙の実演 1名
- ・伊賀忍者特殊集団「阿修羅」による忍者ショー 5名
- ・伊賀組みひもの実演 1名
- ・現役海女による講話と対話 2名
- ・伊勢茶と三重の餅菓子の振る舞い 2名

<各国首脳等と県民との交流～世界との絆づくり>

- ・ベトナム・フック首相のお出迎え等 約 30 名
- ・ベトナム・閣僚の松阪市訪問時のお出迎え 約 30 名

<ジュニア・サミットでの参加>

- ・KUWANA NIGHT での桑名市民によるお出迎え 約 2,000 名
- ・サポートデスクの設置 (看護師・臨床心理士等)
- ・将棋体験 日本将棋連盟三重県支部連合会 5名
- ・三重県出発の見送り (通訳ボランティア、スタッフ等)

<IMC アネックスガイドツアーの実施>

- ・一般県民等対象 1,040 名

<協賛、応援、寄附>

- ・合わせて 1,000 件を超える協賛・応援
- ・5 億円を超える寄附

→地域の一体感の醸成、郷土に対する愛着や誇りの高まり
地域をより良くしようとする意欲の醸成へ

(つづき)

○次代を担う子ども・若者の大活躍

<首脳の神宮訪問での参加>

- ・幼稚園児（神宮附属幼稚園）によるお出迎え 46名
- ・南勢志摩地域の小学生による植樹のお手伝い 20名

<配偶者プログラムでの参加>

（総理夫人主催昼食会）

- ・相可高校食物調理科生徒等による食事の提供 11名

（総理夫人主催夕食会）

- ・若手バイオリニスト（津市在住中学生）による演奏 1名

（真珠島交流プログラム）

- ・伊勢音頭保存会・「伊勢っ子」との踊りによる交流

（植樹）

- ・志摩市立神明小学校児童によるサポート 9名

（IMC 視察）

- ・障がい者等とのパラスポーツ体験（伊勢市小学生）約 50名

<ジュニア・サミットでの参加> 延べ 518名

- ・日本代表参加者（高校生）4名
- ・討議に資する視察への参加（案内・交流）四日市高校 9名
- ・県内分散型体験・交流行事への参加（案内・交流）（各地域の高校生） 28名（4コース×7名）
- ・県内農業高校等（6校）による花のプランターづくり（180個） 141名
- ・開催日程中のハンドベル演奏 セントヨゼフ女子学園高校・中学校 32名
- ・県内分散型体験・交流行事でのおもてなし
鈴鹿墨のパフォーマンス 鈴鹿高校 14名
まごの店での昼食のふるまい 相可高校 19名
太鼓演奏 特別支援学校玉城わかば学園 31名
歓迎 141名（小・中・高・保育園）
お囃子演奏 亀山市立関小学校 17名
- ・お別れセレモニーでの吹奏楽演奏等
白子高校吹奏楽部 30名
スタンド花作成 久居農林高校 3名
- ・参加者用名札（伊賀組紐）の作成
特別支援学校（2校）19名
- ・マイ箸袋（さをり織り）の作成
特別支援学校（2校）25名
- ・ウェルカムメッセージの作成 相可高校生産経済科 5名

(つづき)

<各国首脳等と県民との交流～世界との絆づくり>

- ・英国首相同行プレスによる皇學館大学生との交流
(雅楽部学生による演奏や舞の披露) 55名

<国際理解・国際交流プログラム>

- ・平成27年度 91回実施
幼稚園・保育所22園・所(25回)、小中学校28校(44回)、高校6校(7回)、特別支援学校3校(5回)、その他10団体(10回)
- ・平成28年度 30回の予定(実施中)
小中学校16校(25回)、高校1校(1回)、特別支援学校4校(4回)

<外務省事業「イチからわかる!サミット塾」>

- ・小学校21校、高校8校で実施

<サミット給食>

- ・小中学校(全29市町)229回、特別支援学校(11校)63回、計292回実施

<子どもふるさとサミット>

- ・小中学校児童生徒ほか430名(うち小中学生180名)

<三重の高校生サミット>

- ・高校生ほか 延べ148名
(ジュニア・サミット日本代表、同体験・交流行事参加者、国際地学オリンピック生徒実行委員、大学生、県外のサミット関連事業に参加した高校生等)

<IMC アネックスガイドツアーの実施>

- ・小中高特別支援学校の児童生徒対象
2,235名(小中学校27校、高校4校、特別支援学校2校)
- ・子どもふるさとサミット及び高校生サミット参加者対象
103名(保護者等を含む)

<食の情報発信>

- ・三重県立みえ夢学園高等学校と連携し、三重の農林水産物をモチーフしたLINEスタンプ「三重のええもんスタンプ」の作成・販売
- 地域をより良くしようとする意欲の醸成、郷土に対する愛着や誇りの高まり、グローバル教育の推進、グローバル人材の育成へ

<p>・おもてなしの力の向上</p>	<p>○研修等によるおもてなし力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日外国人おもてなし研修（2回）（飲食店、旅館業等延べ151人参加） ・インバウンド対応接遇研修（各市町観光部署・観光協会・観光案内所等職員等延べ301人参加） ・サミットに関わった多くの事業者による貴重な経験（ジュニア・サミットや首脳会議等の受入れ、各国要人等の受入れ、食事・食べ物の安全な提供等） <p>→国際観光地としてのレベルアップへ</p>
<p>・ダイバーシティの視点による地域の深化</p>	<p>○障がい者の活躍</p> <p><配偶者プログラムでの参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お菓子の提供（はあぶ工房 together によるシフォンケーキ、維雅幸育会ふっくりあもオンマールによる伊賀の飛猿サブレの提供） ・障がい者等とのパラスポーツ体験（約50名） <p><贈呈品></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総理夫人から首脳等配偶者への贈呈品ラッピング（ペタンコバックミニ（三重の手づくりブランド「M. I. E」（ミー）） <p><ジュニア・サミットでの参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内分散型体験・交流行事でのおもてなし 太鼓演奏 特別支援学校玉城わかば学園 31名 ・参加者用名札（伊賀組紐）の作成 特別支援学校（2校）19名 ・マイ箸袋（さをり織り）の作成 特別支援学校（2校）25名 <p>○在日外国人の活躍</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解・国際交流プログラムでの講師派遣（17回） <p>○外国人向けの情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民会議HPの多言語化 ・県HP（多文化共生課）でのサミット情報の発信 <p>→障がいの有無、国籍等にとらわれず、共生できる社会へ</p> <p>○訪日外国人等への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料公衆無線LANの整備状況（平成27年度）1,287か所 ・消費税免税店開設準備状況（平成27年度）16か所 ・施設内外国語表記等改善状況（平成27年度）39か所 <p>→訪日外国人旅行者の誘致へ</p>

<p>・県民力で「安全・安心」に取り組んだ経験 等</p>	<p>○官民協働による安全・安心の取組</p> <ul style="list-style-type: none">・官民で協力してテロ等を未然に防止するため取り組んだ「テロ対策パートナーシップ」(41 機関が参加)・テロ対策パートナーシップ交通対策推進ワーキンググループと連携して取り組んだ交通総量抑制対策 開催期間中、高速道路等で著しい渋滞発生はなく、円滑な交通流を確保。 →今後の安全・安心なまちづくりへ <p>○社会資本整備の取組</p> <ul style="list-style-type: none">・サミット関係会場周辺等の道路・河川・港湾等の整備・携帯電話通話不可区域の解消 (伊勢道路) <p>○防災・危機対策委員会の取組</p> <ul style="list-style-type: none">・開催期間中、救急案件 8 件、首脳クラスの救急搬送なし。傷病者の症状はいずれも中等症又は軽傷。・DONET を活用した津波予測・伝達システムを整備、5 月 19 日、運用開始。5 月 24 日から 27 日までは、専門家待機の下、システムを運用。・観光事業者において、自然災害対策として津波避難マップ等を整備し、4 月 12 日、DONET を活用したシステムの動作試験と、これに連動した避難訓練を 3 市町で実施。 →地震・津波対策の一層の充実、 今回の経験を次の M I C E 開催へ <p>○保健・医療対策委員会の取組</p> <ul style="list-style-type: none">・開催期間中、食中毒・感染症の発生なし。毒物劇物取扱施設・水道施設の異常なし。・救急患者数 63 名 (延べ 75 件)、首脳クラスの患者なし。 →今回の経験を次の M I C E 開催へ
-------------------------------	---